

こま切れの時間では意味がない！

仕事の多くは、たとえごくわずかの成果をあげるためであっても、もどまった時間を必要とする。こま切れの時間では意味がない」

何かを伝えるには、まとまった時間が必要である。

ドラッカーは、上司と部下との間に権力や権威が障害として存在しないかためか、あるいは逆に障害として存在するか、それとも単に物事を深刻に考えるためか、理由はともあれ、知識労働者は上司や同僚に多くの時間を要求するという

話し合いがなければ、知識労働者は自らのエネルギーを専門分野にのみ注ぎ、組織の機会やニーズとは無縁になっていく。

ともに働く人が多いほど、相互作用だけで多くの時間が費やされる。

仕事の成果や業績に割ける時間がそれだけ減る。

しかし、時間をまとめるには方法がある。

ある人たち、なかでも年配の人たちは、週に一日は家で仕事をしている。研修者がよく使う方法である。

ある人たちは、会議や打ち合わせなど日常の仕事を、週に二日、たとえば月曜日と金曜日に集め、ほかの日、特に午前中は、重要な問題についての集中的な検討に当てている。」

経営者の条件」ドラッカーより参照

<経営のヒント>

時間の使い方は改善出来る。

だが、絶えず努力しない限り、仕事（特に業務）に流される。

何の成果ももたらさない仕事が、時間の大半を奪っていく。

ほとんどは無駄である。

地位が高くなれば、その高くなった地位がさらに時間を要求する。

一番の無駄な時間は何か？

それは、自分の仕事外での会議や講演などである。

特に経営者は、名誉欲を満たすための誘惑がある。

それは、異業種交流会や業界団体での会合などがある。

本当に自分の仕事の成果になっているのかどうか、振り返る必要がある。

私もいろいろな異業種交流会に入っているが、名誉欲を満たすために名誉職をやったり講演活動をやったりしている経営者がいると、かわいそうになる。

何のために、やっているのか？

本人は気づいていないかもしれないが、一番不幸なのは、その企業の社員たちである。

懇親会なども同じである。

仕事の成果に本当に役立つかどうか、考えてみる必要がある。